

このたびは当社の製品をお買い上げいただきましてありがとうございます。
安全で快適にご使用いただく為にご確認いただく事をお勧めいたします。



警告

自転車を使う前に必ず内容を必ず読んで、正しい乗り方と
取り扱いのしかた、危険なこととしてはいけない事をよく理
解して下さい。

本内容及び品質保証書について

- ※ お求めになられた製品に当てはまらない内容も含まれていますので、ご了承下さい。
- ※ お店で必ず防犯登録をしてもらって下さい。
- ※ 駐車時には必ずカギをかけてください
- ※ 製品に付属の取扱説明書には「お買い上げ日・販売店名・車体番号」などの記入を確かめてください。
- ※ お店から受取る際に必ずご自分で記入洩れが無いかを確認の上、ある場合はご自分で記入下さい。
- ※ お読みになった後は、必ず大切に保存し、必要に応じて活用してください
- ※ 定期点検等は必ず行ってください。

下記ホームページを参考にして下さい。

公益財団法人 日本交通管理技術協会

<http://www.tmt.or.jp/>

警告表示

警告表示とは危険度・重要度の程度に応じて下記の表示をしています。
これらを守らないと事故につながったり、ケガをしたり、自転車が重大な故障になる場合があります。

表示の意味

警告



この表示内容の欄は、取り扱いを間違った場合、使用者が「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

注意



この表示内容の欄は、取り扱いを間違った場合、使用者が「傷害を負ったり、物的損害や加害者になる可能性が想定される」内容です。

禁止



この表示内容の欄は「安全上してはいけない危険な行為及び保証範囲外の行為を示す」内容です。

強制

この表示内容の欄は「使用者に必ず実行していただく」内容です。

警告

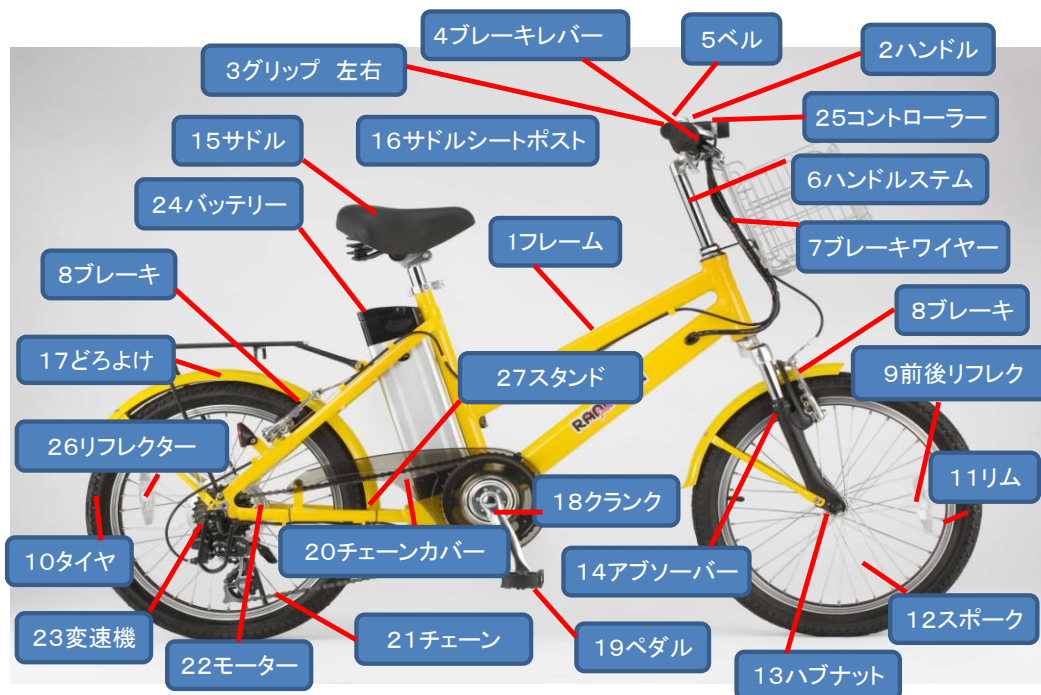
- 安全快適にご使用いただく為に、必ずこのこの内容と製品に付属の取扱説明書をよく読み理解をしてから必ずお使い下さい。
- まちがった取り扱いや調整等は重大な事故につながる危険があります。警告・注意・禁止・強制その他の事項を必ず守ってください。
- 乗るまえに必ずお店にお願いをする「初回点検、防犯登録」を必ず行って定期点検も忘れずに行ってください、日常点検も必ず行ってください。
- 故障、修理などで部品の交換が必要な場合は、必ず当社純正部品を必ず使用して下さい。
- この自転車を他人に譲る場合は付属の保証書といっしょにお渡し下さい。

取り扱い方が分からない場合は必ずお買い求めの販売店にご相談下さい。

もくじ

■ 表紙		■ 点検方法	車輪
■ 警告表示		■ 点検方法	ギア
■ もくじ		■ 調整方法	サドル
■ 各部のなまえ		■	ハンドル ブレーキ
■ 使用条件		■ お店相談	
■ 安全上の注意事項		■ 取り扱い方	ディレラー
■ 警告1		■ タイヤの空気圧	
■ 警告2		■ お手入れの仕方と保管	注油
■ 注意1		■ 交通安全とルール	
■ 注意2		■ 点検・調整・部品交換	全般
■ 点検方法1	全般		点検
■ 点検方法	ハンドル サドル ブレーキ	■	チェック 部品交換

各部のなまえ



番号	各 部 の 名 称	番号	各 部 の 名 称
1	フレーム	22	モーター
2	ハンドル	23	変速機
3	グリップ	24	バッテリー
4	ブレーキレバー	25	コントローラー
5	ベル	26	リフレクター
6	ハンドルステム(ポスト)	27	スタンド
7	ブレーキワイヤー	28	
8	ブレーキ	29	
9	リフレクター	30	
10	タイヤ	31	
11	リム	32	
12	スポーク	33	
13	ハブナット	34	
14	アブソーバー	35	
15	サドル	36	
16	サドルシートポスト	37	
17	どろよけ	38	
18	クランク	39	
19	ペダル	40	
20	チェーンカバー	41	
21	チェーン	42	

純正オプションパーツ

前カゴ・LEDライト・リアLEDリフレクター・荷台・その他

取り付け調整等は販売店での作業をお勧めいたします。

使用条件

標準適用体格

- サドルに腰をおろしてペダルを下げ足に乗せた場合にひざに余裕が在る状態に調整されている事を確認しサドルを調整できている事を確認！
- 初めて乗る方や初心者の場合はサドルに腰を下ろして両足が地面にべったりと付いている事
- ブレーキレバーを余裕を持って握ることが出来る事

乗車体重

一般車	70Kg
幼児車	20kg
子供車	40Kg



※ 乗車体重は、当社にて設計する上で想定した標準的な乗員の体重です。

荷台に載せる事を想定している大きさと重さ

荷物	キャリア	バック・バスケット
大きさ	高さ 30cmまで	バック・バスケットにおさまる 大きさまで
	幅 キャリアの幅	
	長さ プラス10cmまで	
重さ	前後合わせて5kgまで(但し、前は2kgまで)	

警告 積載装置を取り付けた場合に適用します。



大きさや重さが上記表の内容を越えて積載すると、自転車の安定性をそこないます。
荷物を固定しないと安定性をそこないます。
転倒・事故を起こす恐れがあります。
必ず上記表の内容を越えないようにして下さい。

安全上の注意事項

お使いになる人や他人の財産に危害や損害を与える場合や、自転車が壊れる事を未然に防ぐ為に、必ずお守り下さい。

警告



危険 乗る前に必ず点検をして下さい！！！！

異常な箇所を発見した場合は絶対に使用しないで下さい！！！！

※フレーム・フォーク・クランク・ペダルなどの部品に変形やヒビ等の異常はないか？



必ず交換をして下さい。 修正や溶接はしないで下さい。）

走行中に壊れたり折れて事故、ケガをおこす場合があります非常に危険です。

※ 前 後輪の固定は確実にされていますか。

点検方法参照

危険 点検方法 車輪を確認して下さい。



走行中に外れて事故、ケガをおこす場合があります非常に危険です。

※ ハンドルやサドルのポストは確実に差し込んでいますか

点検方法参照

危険 点検方法 ハンドルブレーキを確認して下さい。



ハンドルやサドルのポストが抜けたり、曲がったり、折れたりして事故、ケガをおこす場合があります非常に危険です。

※ ハンドルやサドルの固定は十分にされていますか

調整方法参照

危険 調整方法を確認して下さい



操作が出来なくなり事故、ケガをおこす場合があります非常に危険です。

※ ブレーキは確実にききますか。

点検方法参照

危険 点検方法 ハンドルブレーキを確認して下さい。



止まる事が出来なくなり事故、ケガをおこす場合があります非常に危険です。

※ 各部のネジはゆるんでいる所はないですか。

点検方法参照

危険 点検方法 ギアを確認して下さい。



ゆるんでいると外れて壊れ事故、ケガをおこす場合があります非常に危険です。

※ タイヤの空気は十分に入っていますか

点検方法参照

危険 タイヤの空気圧を確認して下さい。



パンクがしやすくなり、タイヤの磨耗が早くなります。



警告 1

危険です。危ない乗り方は絶対にしないで下さい！

危険 乱暴な乗り方はしない。



※ 階段や縁石の乗り降り、凹凸の激しい場所、アクロバット走行はしないで下さい

自転車が壊れて事故、ケガをおこす場合があります非常に危険です。

※ 2人乗りをしない（道路交通法で禁止）

危険 ステップを取りつけない。



不安定になり、転倒したり、タイヤに巻き込まれたり事故、ケガをおこす場合があります非常に危険です。

※ 片手運転、手放し運転をしない

危険 傘をさしたりしない



急な操作が出来なくなり、よけたり止まる事が出来なくなります。

必ず両手でハンドルをにぎって乗ってください。

事故、ケガをおこす場合があります非常に危険です。

※ ハンドルに物やかばんをぶら下げて乗らない

危険 必ずカゴや荷台に固定してください



車輪に巻き込まれたりバランスを崩して転倒し、事故、ケガをおこす場合があります非常に危険です。

※ 引っかかりやすい服装や滑りやすい靴、かかとの高い靴などを着ていたり、履いては乗らない。

禁止 マフラーや裾の広いズボン・スカート等は巻き込むおそれがあります



クリップやバンド等でまとめて乗ってください

※ 犬や動物を引いて乗らない

危険



犬、猫のリードが巻き込まれる場合があります。

バランスを崩して転倒し事故、ケガをおこす場合があります非常に危険です。

※ 走りながらの操作はしない

危険 携帯電話・ダイナモ・その他の操作はしないで下さい



注意不足になり危険です。

ダイナモ操作は足が巻き込まれてタイヤがロックし、転倒し

事故、ケガをおこす場合があります非常に危険です。

※ 夜間や暗い所では必ずライトをつけ、無灯火で乗らない

強制 必ず前照灯(ライト)を装着して下さい



前が見えなく危険です。

ライトがつかない時は乗らずに降りて押してください。

警告 2 危険です必ずお守り下さい！

禁止 パンクや故障など異常がある時は乗らないで下さい



異常を発見したら必ずすぐにお店に相談して、修理を行ってください

禁止 改造・分解・突出物（ステップ）の装着や指定場所以外の調節はしない



正しく動かなくなり事故、ケガをおこす場合があります非常に危険です。
歩行者や他人に危害を及ぼすおそれがあります。

強制 初回点検・定期点検は必ず行いください。



ご使用になれる前に初回点検を必ず行ってください

使用しているとネジがゆるんだり、調整がズレたりしてきます。
長く使用する為には故障になる前に定期点検を必ず行いください

強制 ブレーキワイヤーは年に1回交換してください



異常や違和感を感じた場合は必ず点検、交換して下さい。

禁止 ブレーキには絶対に油をつけない



ブレーキに油がつくとブレーキがきかなくなります。
事故や、ケガになり非常に危険です。

正しい取り扱い方法を守る（取扱説明書は必ず読んでください）

強制 間違った使い方をすると事故や、ケガにつながり非常に危険です。



交通ルールは必ず守る

強制 道路標識は必ず覚えて守ってください



交通ルールを守らないと事故でケガをしたり他人にケガを負わせたり
重大な事になる場合があります。

未組み立て及び未調整の自転車は使わない

必ず点検整備を行ってください。

禁止 調整が行われていない場合、部品が外れたり操作が出来なくなり、
転倒や事故や、ケガをしたり非常に危険です。



かさやステッキ、釣りざお等を車体に差し込んだり、吊り下げたりして
走らないで下さい。

絶対に車体や車輪に突起物を差し込まないで下さい

禁止 車輪に巻き込んだり、他の人や物にぶつかり転倒や事故、
ケガをしたり非常に危険です。



禁止 歩行者に危害を及ぼすおそれのある突出物を装着しない





注意 1

安全のために必ずお守り下さい！

走行する時の注意

強制



- スタンドが上がっている事を必ず確認して下さい。
カーブや交差点を曲がる時にスタンドが地面に
引っかかったり、当たったり、転倒するおそれがあります」
- タイヤに空気が少ない場合は必ず空気を入れてから乗る
空気が少ない場合タイヤが減りやすく、また、すべる事もあります
パンクもしやすく、ペダルが重くなります

(適正空気圧を確認下さい)

カーブを曲がるときは

強制



- カーブでは急ブレーキをかけない
(横滑りをして危険です)
- カーブを曲がる時は手前で確実にスピードを落とす
- カーブを曲がっている間(途中)はペダリングをとめる
(車体が傾いている時に内側のペダルが下にある場合
ペダルが地面に当たり非常に危険です)

ブレーキをかけるときは

強制



- ブレーキレバーをいつでも握れるようにして乗る
- ブレーキをかける時は両方のブレーキを使う
片方だけを使う事はスリップをして非常に危険です
先に後ブレーキをかけてから前後ともブレーキを使う
- 急なブレーキをかける時のないように、いつも前方を
確認し注意を怠らないようにスピードを控えめにする
- 雨天時にはブレーキの効きが悪くなる事があるので
ゆっくりと走行する事を心がけてください
- ハンドレバーを握っている場合は急なブレーキ操作が出来ません、
ゆっくりと走行してください



注意2

安全のために必ずお守り下さい！

回転部分には

- 手や足を回転部分に入れないようにして下さい
- 子供が近くにいる時は特に注意をして下さい
(はさまって大ケガをします)
- スポークの間(中)に物を入れたり挟んだりしないで下さい
(車輪にはさまって転倒してしまいます)

荷物を積むときは

- 必ず積載装置(キャリア・バスケット等)を取り付けて、それらに荷物を積む。
(荷物の大きさ、重さは使用条件ページを確認してください)
- キャリア・バスケットなどは必ず当社指定の専用部品を取り付けてください。
- 荷物は片寄りがおきないように荷物用のひも等でしっかり固定し歩行者の迷惑にならない様にして下さい。
- 荷物でリフレクター(反射板)が隠れないようにして下さい>
(反射板が見えないと夜間の走行時に危険です)

雨・風・雪が強く視界が悪いとき

- 自転車から降りて押して下さい。無理に乗らない！

サビを防止して、長持ちをさせるために

- 定期的に点検、手入れをする。
手入れの仕方は各ページをご観覧下さい。

走行目的以外の使用

- 踏み台など走行以外の目的に使用しないで下さい。
(転倒をしケガをするおそれがあります)

点検方法



初めて乗る前にお店にお願いをする「初回点検」「定期点検」を必ず行ってください

日常、乗る前の点検は必ず行いください

初回点検

- 購入後、乗られる前、購入後100km 到達時または1ヶ月以内に受けてください
初期の内は特にネジがゆるみやすいので、必ず点検を受けてください。

定期点検

- 購入後6ヶ月・12ヶ月・その後は1年ごとに点検を受けてください
安全に長くお使いいただく為に必ずお店で定期点検を受けてください
長い間使用しないで、再び使用する場合も点検を受けてください
消耗品は必ず純正品をお使い下さい

乗る前の点検

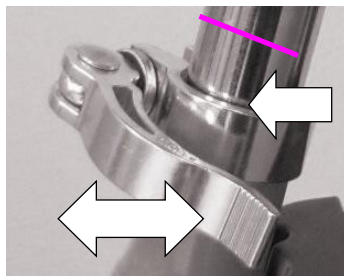
- 毎日乗る前に必ず点検をして、安全を確かめてから乗ってください
変形や破損している部分や異常な部分は必ず新品と交換してください
消耗品は必ず純正品をお使い下さい

各部の点検

- | | |
|------------------|-------------------|
| ◆ 正しい乗車姿勢 | ◆ ハンドルの固定 |
| ◆ 各部のネジのゆるみ | ◆ ヘッドのガタツキ等 |
| ◆ サドルの固定 | ◆ ベルの鳴り |
| ◆ リフレクターの汚れ・割れ | ◆ ブレーキレバーの固定 |
| ◆ 変速機・ギョレーラーの動き) | ◆ ブレーキレバーの効き |
| ◆ チェーンの油切れ | ◆ ブレーキのゴムの減り |
| ◆ クランクの曲がり・ガタ回転性 | ◆ ランプの点灯 |
| ◆ ペダルの曲がり・ガタ・回転性 | ◆ 車輪の固定・ガタ・振れ・回転性 |
| ◆ タイヤのキズ・磨耗・空気圧 | |

点検方法 ハンドルブレーキ

禁止 各部点検項目 ハンドル サドル その他 固定方法



- サドルは進入不足ではないですか
(抜けたり折れたりします)
- サドルは正しい方向を向いていますか
(進行方向に対してまっすぐに付けてください)
- ポストに刻みがあります、超えていませんか
(刻みを超えていると折れたり抜けます)
- クランプは固定されていますか
(サドルの前後を持って左右にゆすってみる)



- ハンドルは進入不足ではないですか
(抜けたり折れたりします)
- ハンドルは正しい方向を向いていますか
(進行方向に対してまっすぐに付けてください)
- ネジは緩んでいませんか
(ハンドルが抜けたり、曲がることとなります)



- ハンドルの固定はされていますか
(前輪を足で固定してハンドルを左右に動かしてください)
(止下にも動かしてください)
- ※ 力を入れても回らない事

※ ハンドル サドル、限界位置が隠れるまで差し込まれている事

※ ハンドルが前輪に対して直角に固定されている事

※ サドルがフレームの中心に向いている事

※ サドルに座った時に無理の無い姿勢で操作が出来ている事

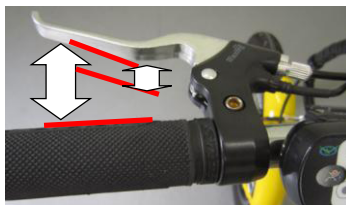
※ 地面に確実に両足が付いている事

※ ブレーキレバーを無理なく握る事

※ ハンドル操作が無理なく出来る事

各部点検項 ブレーキ

強制 ブレーキワイヤーは消耗品です、定期的に交換してください



● ブレーキの効き具合

レバーをにぎり効き具合を確認

※ レバーのすき間が 1/2 から 1/3 になる様に、レバーの作動が重たくなる事



● レバーの固定

レバーを指で上下に揺すって確認

※ レバーが上下に動かない事



● ワイヤーのサビ 切れ ほつれ

※ サビ 切れ ほつれなどがない事

※ 交換してください



● ブレーキゴムの減り

※ 上から見た場合に溝があります
溝の残りが 1mm 以上ある事

※ 交換してください

点検方法

各部点検項目 車輪 ランプ・ベル・ブザー・リフレクター



- 車輪が確実に固定されているかを確認

車体を持ち上げて車輪を上から叩いてみて下さい

※ 車輪がずれたりガタつきがしない事

- 触れ・ガタつき・回転

車体を持ち上げて車輪を回してみて下さい

※ スムーズに回り大きな触れやガタがない事

- タイヤのキズ・磨耗

タイヤの表面を目視して下さい

※ 接地面の模様はありますか

※ 内部の見える傷はないですか

※ 大きなひびはないですか

※ 上記を確認した場合は交換してください

- 空気圧

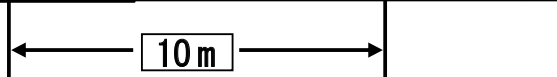
空気は入っていますか

※ 空気が十分に入っている事を確認して下さい

タイヤの横に指定空気圧が表示されている場合があります



- **ランプ**
明るく点灯して前方を確実に照らす事
※ 前方10m位を照らす事



- **ベル・ブザー**
ベル・ブザーは確実に装着して下さい
※ ベル・ブザーは必ず良くなる事



- **リフレクター**
必ず装着されている事
※ 後ろから良く見える様にして下さい
※ レンズにワレ・汚れが付いていませんか

- 車種により形状は違う場合があります。
- 夜間の走行時には点灯・点滅する事
- テールランプの装着をお勧めいたします車種により標準装着

点検方法

各部点検項目 ギア・クランク・ペダル・ディレーラー変速機



- ディレーラー装着車はペダル(クランク)を正方向に回転させながらシフトレバーを操作する
- クランクにガタがなくスムーズにシフト(変速)をする
- ※ ディレーラー装着車はギアのロー側、トップ側共に変速をしてもチェーンが外れない事
- 後ろから見た場合にディレーラーが変形(斜め)になっていない事



- チェーン
- ※ 油切れがなく、動かしたときに滑らかにうごく事
- ※ チェーンが大きく弛んでいたりしていない事
- クランク
- ※ クランクにヒビや曲がりがない事
- ※ ガタツキがない事

各部のネジのゆるみ



● ヘッド部のゆるみ、ガタつき

- ※ 左右のブレーキレバーをにぎり、前後に自転車をゆする
- ※ ガタつきや異音が生じた場合は点検を行って下さい
- ※ ガタつきがあればヘッドが緩んでいるか部品が壊れている場合があります



● 各部のネジのゆるみ

- ※ (少し車体を持ち上げて軽くおとす)
- ※ 異音が生じない事
- ※ 異音が生じたらネジが緩んでいます

調整方法

安全を確保するために、各部の調整や点検は確実にを行い安全にお乗り下さい。
これらを怠りますと思わぬ事故、ケガにつながります。ご不明な点がございましたら
お店にご相談して下さい。また、調整はお店で行う事をお勧めいたします。

※ 購入後、初回点検、定期点検は必ずお店で行って下さい。

注意 安全のために必ずお守り下さい



正しく乗車するための姿勢

- サドルに腰を下ろした状態で両手でハンドルに手を置いた状態での確認です。
- 1 両方の足が確実に地面についている事。
- 2 上半身が前に少し傾き、ヒジが軽く曲がり無理の無い姿勢である事
- 3 ペダルをこぎ動いた時に、ヒザがハンドルに当たらずに、ハンドルを操作する事が確実に出来る事
- 4 円滑にペダルをこぐ事ができて、ブレーキ・シフト・レバー・ペダルなどの操作が安全に確実に出来る事

サドルの調整の仕方

サドルの高さ



- サドルを高くした状態でも、シートポストのはめ合わせ限界標識が見えなくなる状態まで下げて下さい
- ※
- ※ サドル・シートポストが抜けたり、折れたりする事が起こり事故やケガの恐れがあり非常に危険です。

調節方法

回転式シートポストレバー・ボルト、ナット式の場合



- シートポストレバーまたはシートピンナットを緩めます
シートが上下に調整出来るように動きます
- ※ 固定をする場合はシートポストレバー・シートピンナットを締め付けて確実に動かない様に固定をして下さい

シートポストレバーまたはシートピンナットの回しすぎに注意して下さい。

シートの角度の調整



- サドルの取り付け角度はサドルの上面がほぼ水平になるようにして下さい。
- サドルに座りペダルを斜め前の一番力が入り易い位置にして足を乗せた時に、ひざの中心の真下にペダルの中心がある事が最適となります。

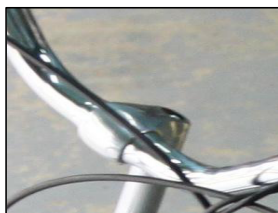
調整方法

- ※ サドル下の取り付けナットをスパナで緩めて前後位置と角度が調節できます
- ※ 固定をする時はスパナでサドル取り付けナットを締め付けて確実に固定します

ハンドルの調整方法

- 警告**  ハンドルを高くした状態でも必ず抜けない様に15cm 以上は入れて下さい
- ※ 確実に閉めて抜けないかを確認後、走行して下さい

調節方法



- 上下調節ネジをゆるめ角度や高さを調整できます
- ボルトを緩めるとハンドルの上下、角度の調節を行う事が出来ます。

- 警告**  ハンドルを高くした状態でも必ず抜けない様に15cm 以上は入れて下さい



- ハンドル調節ネジをゆるめハンドルの角度の調節が出来ます

- 警告**  角度の調節を行う場合は両手がブレーキレバーに手が確実に届くかレバーの角度の調整も必要となります。

6角レンチ (止下調整)

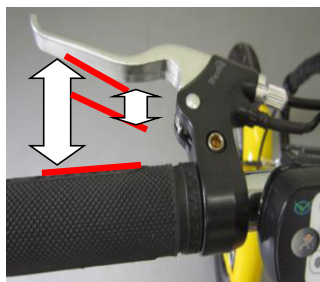
- 注意**  ハンドルポストが抜けたり、折れたりする事が起こり事故やケガの恐れがあり非常に危険です。

ブレーキ調整のしかた

- 長い間の使用により、ブレーキレバーのあそびが大きくなります、効きも悪くなります。日常点検、使用の時にブレーキが効くように常に心がけて調節して下さい。

- 警告**  ブレーキの各部は説明書に記載されている場所以外の調整は絶対に自分で行わないで下さい。
(お店での点検を行って下さい)

調整方法



- 前 後ブレーキレバーのつけ根 (ワイヤー) 取り付け部にアジャスターボルトがあります、ゆるめていくと遊びが少なくなります。
- ブレーキレバーを引いてすき間の大きさが1/2～1/3になるまでにブレーキが良く効くように調節して下さい。
- アジャスターボルトにロックナットが装着されている場合は、ロックナットを1度ゆるめてからアジャスターボルトを調節して下さい、調節後は必ずロックナットを締め付けて下さい)

※ ロックナットの締め付けを忘れると振動により元の状態になる場合があります、危険です。

Vブレーキ車

前ブレーキ

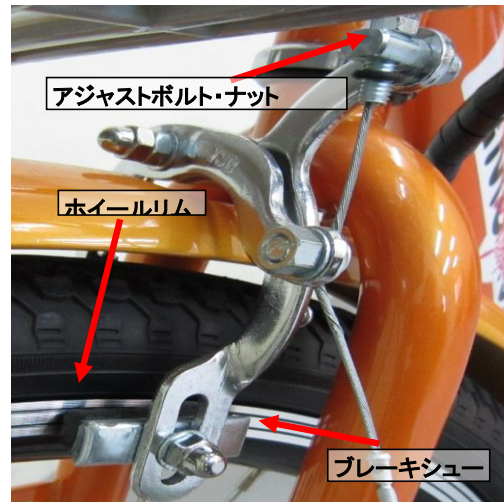


後ブレーキ

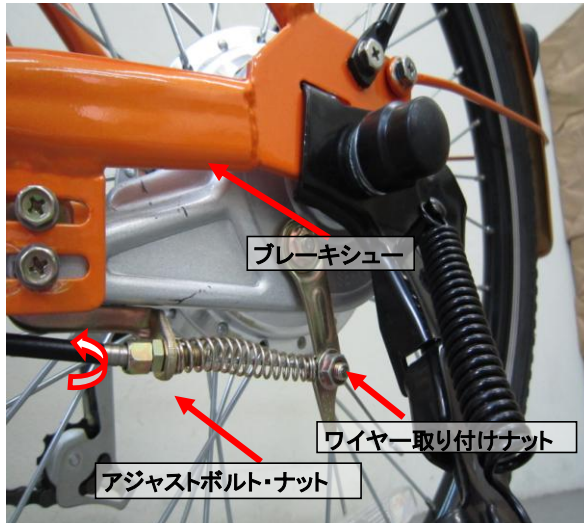


キャリパー・バンドブレーキ車

前ブレーキ



後ブレーキ



お店にご相談してください

下記の場合はお店にご相談をして自分での調整、修理は絶対に行わないで下さい。

ブレーキ

強制



- ブレーキブロックがリムに当たったままになっている場合
- ブレーキブロックがリムの片側に当たったままになっている場合
- ブレーキブロックがリムに当たっているが下にずれている場合
- ブレーキブロックがリムに当たっているが上にずれている場合
- ブレーキブロックが磨耗して残り溝が1mmになった場合
- アジャストボルトで調整しても効きが悪い場合
- ブレーキの効きが悪くなった場合

変速機・ディレーラーの調整は、お店に依頼をして自分での調整はしないで下さい。

- 変速機の調整は非常にむずかしく、間違った調整をした場合正常に作動しなくなります
 - ディレーラーの調整は非常にむずかしく、間違った調整をした場合正常に作動しなくなります
- ※ 間違った調整をした場合には、チェーンが外れてしまい、変速機・ディレーラーを破損します

取り扱い 基本編)

変速機 ディレーラーの調整の操作方法、使いかた

- 変速機 ディレーラーは走行条件の変化に応じてギヤ比を変えたりペダルの回転の速さ、重さを一定にして、疲れを少なくする事が出来ます。
- 風向きや坂道の状況により変更して下さい



- シフトレバーを上下方向に回転させます。
(車種により変速機の段数は異なります。)

こういう時は

- 上り坂やペダルの回転が重い場合

シフト	速	→	平	→	軽	※	ペダルの回転が 軽 くなります
	(7~6)	5	→ 4	→ 3	→ 2	→ 1	※ 乗りやすい重さのギアを選んで下さい

- 下り坂やペダルの回転が軽い場合

シフト	軽	→	平	→	重	※	ペダルの回転が ゆっ くりになります
	1	→ 2	→ 3	→ 4	→ 5 (6~7)	※	乗りやすい重さのギアを選んで下さい

注意 シフトチェンジ (ディレーラー装着車)を行う場合は必ずペダルを回転 (正回転)をさせながら1段づつシフトレバーを操作して下さい。
内装変速機は必ず (正回転)を止めてシフトレバーを操作をして下さい)

注意 坂道でのシフトレバーの操作は坂の手前で行って下さい

禁止 1度に何段かのシフトチェンジをしないようにして下さい

! チェーンが外れやすく、ペダルの回転と足の動きが合わずに転倒する場合があります

禁止 急な上り坂や下り坂は自転車から降りて押してください、ふらついて転倒する場合やスピードが出すぎ非常に危険です。

! チェンジミスが起き、ふらついで転倒が起きる可能性が多くなり非常に危険でディレーラーが故障する場合があります。

路面に凹凸が多い場所や段差にさしかかる (揺れて)いる場合は操作を行なわないで下さい

タイヤの空気圧について

お買い上げをいただきました自転車のタイヤバルブには種類があります、確認して下さい。
バルブに合ったポンプ（空気入れ）で補充して下さい、口金は製造メーカーにより異なります。
例を示します。参考にして、詳しくはお店にてご相談して下さい。

空気圧の測定

注意 空気圧が少ない場合、タイヤの接地面積が広くなり走行抵抗がふえてペダルが重くなります。また、タイヤの摩擦、パンク、リムの変形の原因になります。



必ずタイヤの横に書いてある表示にしたがい空気圧を範囲内に合わせて使用して下さい。



タイヤの空気圧表示と換算値

Kpa	kgf/cm ²	PSI
300	3.0	43.5
450	4.5	65
690	6.9	100

1Kpa=0.01 kgf/cm²=0.145PSI

- 仏式バルブ及び米式バルブは、専用のゲージで空気圧を測定する事が出来ます。

※ 英式バルブの場合はゲージが少ない為、下記の方法を参考にして下さい。

- 空気圧の簡易的な測定のしかた

自転車に乗車をした状態で、接地面の範囲で判定します

お手入れのしかたと保管方法

お手入れのしかた

綺麗に長くご使用になる為には、手入れを行って下さい。柔らかい布や柔らかいブラシでホコリや汚れをよく落としてからお手入れを行って下さい、汚れがひどい場合は水洗いをしてよく乾かして下さい。



水ヌレ禁止箇所 水洗いを行う場合は水が入らないように注意をして下さい。
コントロールボックス ディスプレー バッテリー端子部

※ ぬれた場合はよく乾かしてから電源を入れて下さい。故障の原因となります。

○箇所 注油禁止箇所
タイヤ・リム
ブレーキ・ブレーキシュー

※絶対に油・グリスを付けないで下さい。

○箇所 注油箇所
ブレーキレバー
ギア（ディレーラー）
チェーン

※注油をして下さい。
（1～2ヶ月に1度程度）



※自転車の図は代表例です。



注意



- 塗装部分は市販のワックスを掛けてください。
絶対にタイヤやホイールのリム部にはワックスをつけないで下さい、
タイヤにひびが入る場合があります。
ホイールのリム部にワックスが付いた場合、ブレーキの効きが悪くなり危険です。
- ステンレス・メッキ部分はワックス、サビ止め油、機械油を少し含んだ布で拭いて下さい。
- 海岸、湿気の多い場所、工場や線路、環境の悪い場所にてお使いの場合はサビ易くなります
日ごろの手入れをこまめに行い大切にして下さい。

保管の時は

保管の時は必ずカギをかけて保管をして下さい。

- 雨のかからない乾燥をした場所に保管して下さい。
- 野外に保管をされる場合はカバーやビニールシートを必ずかけて雨にぬれない様に保管して下さい。
- バッテリーは車体から取り外して室内にて保管して下さい。

注意



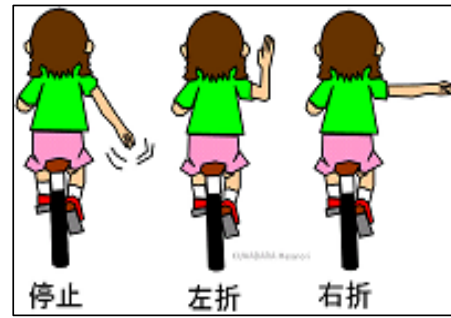
車体の倒れやすい場所や物がぶつかる場所に保管したりした場合、部品がこわれたり、キズや故障の原因となります。

※ 保管後、お乗りになる場合は必ず点検を行い下さい。お店での点検調整をお勧めいたします。

交通安全とルール

交通安全とルールを守りましょう

- 1 自転車を安全に正しい乗り方をしましょう
 - 発進をする時は、見通しを確認し左側で、前方・後方の安全をよく確かめてましょう。
 - 左折・右折をする時は速めに合図をしましょう。
 - 停止をする時は、安全を確かめて停止の合図をし道路の左側に沿い停止して、左側に降りましょう。

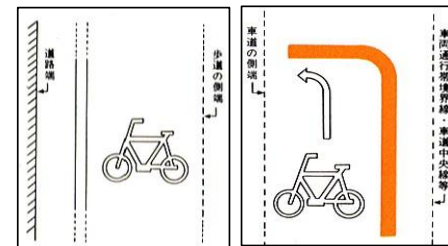


- 2 自転車が走る位置(場所)
 - 自転車が車道を走る時は、車道の左側を走行しましょう
 - 自転車は路側帯を走る事が可能ですが、歩行者の通行の妨げにならない様に気をつけて走りましょう。
 - 白い2本線の標識のある場所は通る事が出来ません、気をつけて走りましょう。
 - 自転車歩道通行可の標識のある歩道は、下記の方法により走行できます。
 - 歩道の車道よりの部分を徐行する。



自転車及び歩行者専用

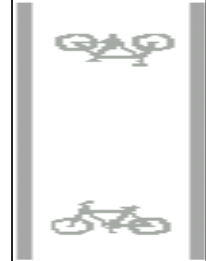
自転車専用



自転車の歩行通行部分

自転車の交差点進入禁止

- 歩行者等の通行を妨げる恐れが場合は停止し、安全を確認をして、走行しましょう。
- 自転車道のある場所は、自転車道路を走りましょう。
- 道路を横断する時は、自転車横断帯がある場合は自転車横断帯を走行しましょう。
- 自転車横断帯が近くにない場合で、横断歩道がある時は、自転車を降りて押して渡りましょう。



- 3 自転車が通行できる路側帯、歩道を通る時の注意点
 - こども、身体の不自由な人が歩いている時は注意をして、一時停止をして、十分にスピードを落としましょう。
 - 歩行者の通行の妨げにならない様にしましょう。



止まれ



自転車横断帯

4 交差点の通り方

- 右折の方法

信号機のある交差点を通る場合

- 二段階で右折して回りましょう。

信号がなくて交通整理が行われていない場合

- 左右をよく確認をして安全に走行しましょう。

※ 自転車進入禁止の標識がある交差点では、左側の歩道に乗り入れて自転車横断帯を通るようにしましょう。

※ 自転車横断帯がある場合は、自転車横断帯を通りましょう。

5 自転車を駐車するときの注意点

- 自転車を駐車する場合は、歩行者や車の通行の妨げや邪魔にならない様に注意をしましょう。
- 必ずカギをかけましょう。
- 自転車駐車を利用しましょう。
- 公の場所には放置をしない様にしましょう。

6 走行中の注意点

- 自動車が渋滞をしている場合は、その前に割り込んだり車の間を走らない様にしましょう。
- 車の直ぐ後ろを走ったり、つかまって走らない様にしましょう。
- 他の自転車がいる場合や、何台か横に並んでの走行はしない様にしましょう。
- ジグザグ運転や競争はしない様にしましょう。
- 横断や転回を行う場合は前後、左右の安全をよく確認をしましょう。近くに自転車横断帯や横断歩道がある場合はそれらを渡りましょう。
- 見通しの悪い場合は見通しの良い所で行いましょう。
- 止まっている車の近くを通る場合は急にドアが開いたり、車の陰からこどもや予期せぬ事がある場合があります、注意をして走行しましょう。
- 交差点の近くを走行する場合は歩行者や左折車に巻き込まれない様に注意をしましょう。
- 交差点や狭い道から広い道へ出る場合は停止を必ずしましょう。
- 標識を覚えてよく見て走行しましょう。
- 自転車に乗る場合は、他の運転者に見やすい様に明るく、目立つ様な服装を着ましょう。
- 曲がり角や障害物などで見通しが悪い場所を走行する時は、スピードを十分に落として注意をして走行しましょう。
- 路面の状況(凹凸・滑りやすい場所・雨・凍結・雪・風の強い時)その他状況が悪い場合は自転車から降りて押して歩きましょう。
- 走りながら携帯電話の操作(電話・メール・他)はしない様にしましょう。
- 酒を飲んでの運転や疲れが激しい場合は乗らない様にしましょう。
- 必ず暗い場合はライトをつけましょう。
- 安全の確保が難しい場合は乗らない様にしましょう。

点検・調整・チェックリスト・部品交換

点検・調整チェック項目（全車種全体編）

- 1 大きさは乗り手の体格にあっているか
- 2 サドルにまたがって、足が地面にとどくか、又サドルの固定は確実か
- 3 ハンドルの高さは適切か、また固定は確実か
- 4 乗る人が乗りやすく、サドルの前後の位置が調整されているか
- 5 1、2の項目が適切か
- 6 フレーム、前フォークに変形や亀裂などはないか
- 7 ヘッド、ハンガー小物にガタツキ・摩擦はないか
- 8 ドロヨケはしっかりと取りついているか
- 9 荷台（キャリア）はしっかりと固定せれているか
- 10 スタンドの取り付けと作動はしっかりとしているか
- 11 タイヤの空気の入り具合は適切か、タイヤはすり減っていないか
- 12 ペダルはクランクと直角に取り付いているか
- 13 クランクに曲がりはないか、
- 14 ギア（クランク）は滑らかに回転し、ガタツキはないか
- 15 ペダルは滑らかに回転しているか
- 16 車輪の振れ、スポークにゆるみ、軸部のガタはないか
- 17 ブレーキゴム（シュー・パッド・ライニング）などはすり減っていないか
- 18 レバーの間隔は正常で前後のブレーキはよく効くか
- 19 チェーンのたるみ、張り方は適正か
- 20 充電ランプは点灯するか
- 21 ネジはゆるんでいないか
- 22 リフレクターはこわれていないか、よごれていないか
- 23 ベルはよく鳴るか、ゆるんでいないか、こわれていないか
- 24 鍵の取り付け、機能はよいか
- 25 ギアチェンジは正確に作動するか、チェーンは外れないか
フリーホイールは回転と注油はよいか
チェーンケースは取り付けはよいか
チェーンケースの形状はよいか

乗車される前の点検整備チェックポイント Check sheet

点 検 項 目		乗車前点検		乗車前点検	
		点 検	調 整	点 検	調 整
1	ハンドル、サドルの取り付けにガタはないか				
2	フレーム、前ホークに変形や亀裂等はないか				
3	ヘッド、ハンガー小物にガタ、摩耗はないか				
4	ドロヨケはしっかりと取りつけてあるか				
5	スタンドの取付と作動は良いか				
6	タイヤの空気のはいり具合は適正か タイヤは磨り減っていないか				
7	クランクに曲がりはないか、ギアクランクは滑らかに回転し、ガタはないか				
8	ペダルは滑らかに回転するか				
9	車輪の振れ、スポークのゆるみ、軸部のガタはないか				
10	ブレーキゴム類はすりへっていないか				
11	レバー間隔は正常で前後のブレーキはよく効くか				
12	チェーンのたるみ、張りは適正か				
13	リフレクターに破損、汚れはないか				
14	ギアチェンジは正常に作動するか、またチェーンがはずれないか				
15	アシストモーターからの異音はないか				
16	コントロールパネルのトルク切替に異常はないか				
17	ベルは正常に鳴るか				
18					
	点検・整備を実施した販売店並びに年月日				

●点検・調整のお願い

- お買い求めされた後上記のチェックポイントに基づき点検して下さい。
- 異常を感じた場合販売店及びメーカーにお問い合わせ下さい。
- 常に正常なコンディションでご使用下さい。

部品交換は必ず販売店、お店に相談をして下さい。

タイヤ・チューブについてはサイズを確認指定のサイズを使用してください。

お買い上げのお店に自転車を持参し、その自転車に適合した部品に取り替えて下さい。

その他交換部品については、お買い上げのお店で同一、同等品を使用して下さい。

純正交換部品を用意致しております。お問合せ下さい。

工具の取り扱いについて。

日常の点検等でネジのゆるみなどが生じた場合は、六角レンチやスパナなど適切な工具をつかい調整を行って下さい、

※ 不適切な工具を使用した場合十分な締め付けや調整が出来なくなり、故障につながり大変に危険です。